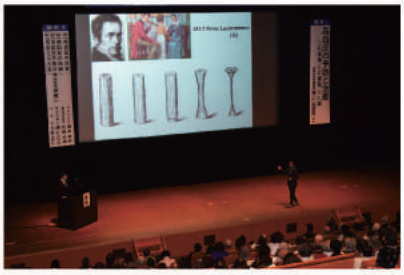
連携室だより

鹿児島医セン

鹿児島医療センター（循環器・脳卒中・がん専門施設）

2017.4. vol.132

第７回　心臓・血管病市民公開講座



平成２９年３月１２日（日）に県民交流センターで第７回心臓・血管病市民公開講座を開催しました。テーマは高血圧と心臓病で、当日は春先の好天に恵まれたうららかな天気でした。このような行楽日和にわざわざ高血圧の勉強に来てくださるかどうかと心配しておりましたが、例年通り５７２名の参加者でした。その他当院の運営スタッフ２６名、ボランティアの看護学生さん１３名に協力してもらい盛況のうちに開催することができました。当日の講座内容は、講演Ⅰとして福岡大学名誉教授の荒川 規矩雄先生に高血圧の予防と治療についてお話しいただきました。先生ご自身が８７歳とはとても思えないエネルギッシュな講演で、降圧のために重要なことは、減塩、運動、薬で特に減塩がキーポイントであるとのことでした。

普段焼き鳥、塩唐揚げ等をよく食べるアルコール好きにとっては耳に痛い話だと思いましたが、死亡率の比較の詳細なデータに裏打ちされたスライドを見て、今後の良い教訓になったことであろうと思います。講演Ⅱでは当院の救急科医長　田中 秀樹による高血圧の診断、循環器内科医長　片岡 哲郎による高血圧の治療、管理栄養士　廣石 さやかによる高血圧予防の食生活習慣、薬剤師　大園 ゆかりによる高血圧のお薬の話しと、高血圧についてより具体的で詳細な勉強ができたことであろうと思います。

その後、循環器内科部長　薗田 正浩、循環器病棟師長　堂園 文子司会による質疑応答、参加者に血圧計が当たる抽選会と滞りなく進行することができました。

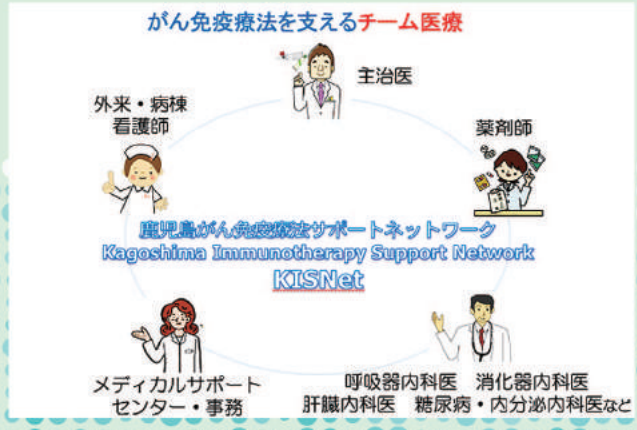
また、病院紹介のＤＶＤでは今年３月完成予定のハイブリッド手術室の紹介、今年鹿児島県で初めて導入予定のＴＡＶＩ（経カテーテル的大動脈弁置換術）についての教育ビデオも供覧させていただきました。このように、常に最新の医療技術を導入し、少なくとも東京で助かる命を鹿児島では助けられないということがないように努力しております。また、昨年１１月より心臓病・脳卒中救急センターを開設しました。今後、なお一層鹿児島県における循環器の救急患者さまのお役に立てるよう患者さま、ご家族に寄り添い、病院一同努力してまいります。今後ともよろしくお願い致します。

（文 責：鹿児島医療センター　統括診療部長　中島　均）

がん免疫療法連携セミナー［KISNetセミナー］を開催しました

去る3月9日に、当院大会議室でがん免疫療法連携セミナー（ＫＩＳＮｅｔセミナー）を開催しました。近年、がん免疫療法の免疫チェックポイント阻害剤（オプジーボ®、キイトルーダ®、ヤーボイ®）が、皮膚がんのメラノーマを皮切りに本邦においても様々ながん腫で次々と承認されています。このがん免疫療法は、効果が出た場合には長続きすることが特徴である半面で、多彩な免疫関連有害事象（ｉｒＡＥ）が生じることが報告されています。それゆえに、ｉｒＡＥへ迅速に対応して患者様に対して安全かつ効果的ながん免疫療法を提供するため、多職種、多診療科で横断的なネットワークを作ることが私達医療者に求められています。今般、当院では南風病院呼吸器内科・肝臓内科と連携して鹿児島がん免疫療法サポートネットワーク Kagoshima Immunotherapy Support Network（ＫＩＳＮｅｔ）を設立しました。がん免疫療法に関わる多職種の業務を相互に理解するとともに、ｉｒＡＥをどうマネジメントしていくべきか理解を深めるためにＫＩＳＮｅｔセミナーがこの度企画されました。花田院長の開会の挨拶に続いて皮膚腫瘍科･松下が、がん免疫療法のレビューを行ない、第1部の<多職種連携について>で、「高額療養費制度」(企画課･山並係長)、「看護師の取り組み」(看護部･徳永副師長)、「薬剤師の取り組み」(薬剤部・松島薬剤師）について、各々の職種でのがん免疫療法への関わりが述べられました。第２部<多診療科連携について～免疫関連有害事象のマネジメント～>では、南風病院呼吸器内科・山口昭彦先生によってｉｒＡＥの一つの「間質性肺疾患」について、診断時のポイントなどの詳細な提示がなされ、「肝機能障害」については南風病院肝臓内科・小森園康二先生から、自験例を踏まえてがん免疫療法前の検査項目や有害事象の対処アルゴリズムが示され、肝臓専門医との連携の必要性が示されました。「甲状腺機能障害・１型糖尿病」では糖尿病・内分泌内科・郡山部長が、内分泌代謝疾患の対応フローを示すとともに、自験の劇症１型糖尿病症例を通して、がんのみでなくｉｒＡＥという新たな重荷を負うことになる患者様への想いに寄り添い、支え続けていく医療者の責務や連携の必要性が強調されました。「大腸炎・重度の下痢」では消化器内科・山路医長によって、診断のポイントや検査のタイミングについて詳細に示されました。さらに第３部<システム運用について～クリティカルパスの導入～>では、「がん免疫療法クリティカルパス　運用上の注意点」について当院パス委員長の第２循環器科・東医長から、主に救急外来でのパスを導入したこととその運用上の注意点について紹介されました。今回のセミナーには院内外から総勢１１４名もの参加があり、がん免疫療法とそのマネジメントに対する関心の高さが伺えました。本セミナー開催にあたりご尽力下さった関係各位にはこの場をお借りしまして深くお礼申し上げます。今後はＫＩＳＮｅｔの中で症例検討会や勉強会を重ねていき、ひいては鹿児島医療圏全体を網羅して、がん免疫療法を受けられる全ての患者様を支えることができるようなネットワークとなるように進めてまいります。これからもよろしくお願いいたします。

（文 責：皮膚腫瘍科・皮膚科医長　松下　茂人）



第4回 鹿児島医療センター院内学会

平成29年3月4日（土）に当院の大会議室で院内学会を開催しました。当院は職員数700人を超える大所帯となっており、各部署において行われている日常業務を他の部署の職員が知る機会はほとんどないと思います。院内学会は各部署の臨床研究にスポットを当て、その発表を通じて職員間の相互理解を深めるとともに、当院の臨床研究を推進させる目的で平成26年3月にスタートしました。今年の院内学会では19題の演題が発表されました。総数98名（医師24名、看護部22名、薬剤師9名、検査科11名、放射線科9名、臨床工学室1名、栄養管理室4名、事務部6名、看護学校12名）の参加があり、活発な討論がなされました。

評価者による採点の結果、各群の優秀者は、第Ⅰ群:救急科田中秀樹医長、第Ⅱ群:臨床研究部 梅橋功征検査科主任、第Ⅲ群：東3階病棟 大塚瑞紀看護師の3名で、3月16日に行われた合同送別会で副賞とともに表彰されました。

院内学会に対するアンケートでは「院内の全体の知識を得るのに共有の場として非常に有意義だった。」という意見や「他部署の取り組みが知れて良い機会だった。もっと多くの職員に参加して欲しい。」という意見がありました。

院内学会は今回が第4回目になり、年中行事のひとつとして職員間に浸透してきたと思います。その運営方法や演題の評価方法など改善すべき点について、皆様の御意見をいただければ幸いです。最後になりましたが、ご協力していただきました方々にお礼を申し上げたいと思います。

（文 責：臨床研究部長　城ヶ崎　倫久）

院内学会プログラム

Ⅰ群　座長：検体検査責任者　山下 正治　　放射線副技師長　野田 一也

1.	血小板凝集能に影響を及ぼす因子について調査	薬剤部	森田 真樹子
2.	大動脈弁狭窄症におけるストレインT波の有用性	臨床検査科	吉田 一葉
3.	201TI負荷心筋血流SPECT撮像時のアーチファクト対策の検討	放射線科	大浦 美樹
4.	効果的な生活習慣病予防教室実施へ向けての取り組み	栄養管理室	谷 若奈
5.	一般病棟における医療・看護必要度からみる手指衛生の比較	院内感染対策チーム	栗脇 千春
6.	当院のインスリン注に関するインシデントの特徴とその対策について	救急科	田中 秀樹

Ⅱ群　座長：小児科医長　田中 裕治　　婦人科医長　簗詰 伸太郎

7.	当院で経験した免疫チェックポイント阻害剤による免疫関連有害事象 ～ニボルマブ、イピリマブ投与後にACTH単独欠損症を発症した症例を中心に～	皮膚腫瘍科	山村 健太郎
8.	心不全合併のたこつぼ型心筋症の検討	研修医	窪 凛太郎
9.	当院での急性型・リンパ腫型のATL診療の現状について	血液内科	大渡 五月
10.	インターロイキン-33による血管内皮細胞での インターロイキン-8の発現および分泌	臨床研究部	梅橋 功征
11.	冠動脈ｽﾃﾝﾄ留置後の抗血小板薬2剤併用療法における	第1循環器内科	楠元 啓介
12.	血小板凝集能測定の意義の検討	心臓血管外科	寺園 和哉
13.	FDG PET／CT検査が診断に有用であった巨細胞性動脈炎の一例	脳血管内科	濱島 雅代

Ⅲ群　座長：事務部庶務係長　山本 孝平　　副看護師長　岩切 志織

14.	退院先別の入院期間比較	事務部	山並 公彦
15.	母親を亡くすことの予期悲嘆、グリーフケアにチームアプローチした ネフローゼ症候群中学生の1例	東3階	大塚 瑞紀
16.	脳卒中急性期病棟におけるFIM導入の取り組み	東5階	井手 智子
17.	教育入院プログラムに導入した「患者間の語りの場（ひだまり）」を通して	糖尿病看護認定看護師	赤尾 綾子
18.	A病院における卒後3年目看護師の社会人基礎力 ～社会人基礎力調査の結果から考察する～	看護師長研究会	神野 美子
19.	3学年合同の看護研究および学習発表会における学びの分析	看護学校	石川 志保

2016年度 第2回
さつま皮膚外科塾を開催しました

皮膚腫瘍科・皮膚科では2015年から年2回、鹿児島医療センターで臨床研修を行っている研修医を対象に、縫合手技を習得するための「さつま皮膚外科塾」を開催しています。2016年度からは今村病院分院の臨床研修医も加わり、第1回（2016年8月20日）では真皮縫合のコツについて講義と実習を行いました。そして去る2017年2月4日、ジョンソン・エンド・ジョンソン（株）との共催により、皮膚縫合（表皮縫合）をテーマとした「第2回さつま皮膚外科塾」を開催しました。

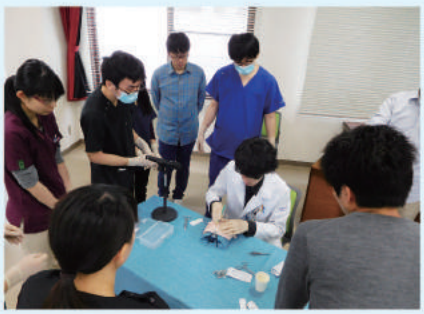
普段から行うことの多い「皮膚縫合」ですが、縫合痕をより目立たなくするためには基本に立ち返る必要があります。縫合針が円を描くように運針すると縫合痕が目立ちにくくなる理由はなにか、締め付けないけど緩まない結紮のコツはなにか、そもそも愛護的な操作とはなにか・・・など、単純だけど奥が深い項目を再確認するための講義を行いました。その後、豚皮を使って各自で手技を確認してもらいました。

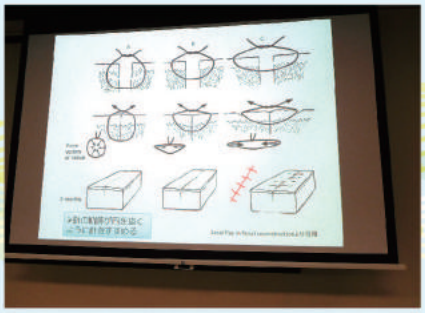
次に、マットレス縫合、三点縫合、連続縫合など様々な縫合法について、それぞれの利点・欠点を説明しました。これらの中で、実臨床で応用しやすい垂直マットレス縫合と三点縫合を豚皮で実習しました。

最後に、応用編としてZ形成術を行いました。Z形成は、目立ってしまった傷跡を修復するのに有用な方法のひとつです。三点縫合や基本的な単結節縫合を駆使しながら、参加者全員がmultipleZ形成を完成させました。

2時間という短い時間でしたが、今回の実習が、今後の臨床に役立つことを願っています。そして今回も無事に開催することができましたのは、院内外各部署および共催、後援各所のご協力の賜と思っております。末筆ながらこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

（文 責：皮膚腫瘍科・皮膚科医師　青木　恵美）





■お問い合わせ先　独立行政法人 国立病院機構 **鹿児島医療センター**（循環器・脳卒中・がん専門施設）
〒892-0853　鹿児島市城山町8番1号
㈹TEL 099(223)1151　FAX 099(226)9246　http://www.kagomc.jp
【地域連携】薗田・谷口・田上・吉永・椎原・迫田・中田・吉留・菊永・櫻木・田辺・宮崎
【がん相談】松崎・森・水元・木ノ脇・原田・上妻・久保
フリーダイヤルFAX専用▶0120(334)476
※休日・時間外は当直者で対応します。